

質問書回答ウェビナー(第2回) 「これから始める情報開示とSBT」

1. SBT - 科学に基づく目標
2. 非財務情報開示に取り組む
3. 質疑応答

※本イベントは録画されており、後日CDPウェブサイトにて公開予定です。
※本イベントの無断録画・録音・掲載は禁止しております。

※本イベントは録画されており、後日CDPウェブサイトにて公開予定です。

※本イベントの無断録画・録音・掲載は禁止しております。

質問書回答ウェビナー第2回

SBT-科学に基づく目標

2023年6月1日(木)

本ウェビナーの内容

1. SBTとは
2. SBTiの目標設定基準・方法
3. SBTi ネットゼロ基準
4. SBT FLAG
5. ネイチャーSBT



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



CDP[™]

DISCLOSURE INSIGHT ACTION

1. SBTiとは

SBTイニシアチブ(SBTi)

科学に基づく目標達成のための活動



2731
with science-
based targets

5172

companies taking action

1822
net-zero
commitments

2023年5月現在

日本企業は539社
がSBT設定済み／設
定をコミット

パートナー団体:



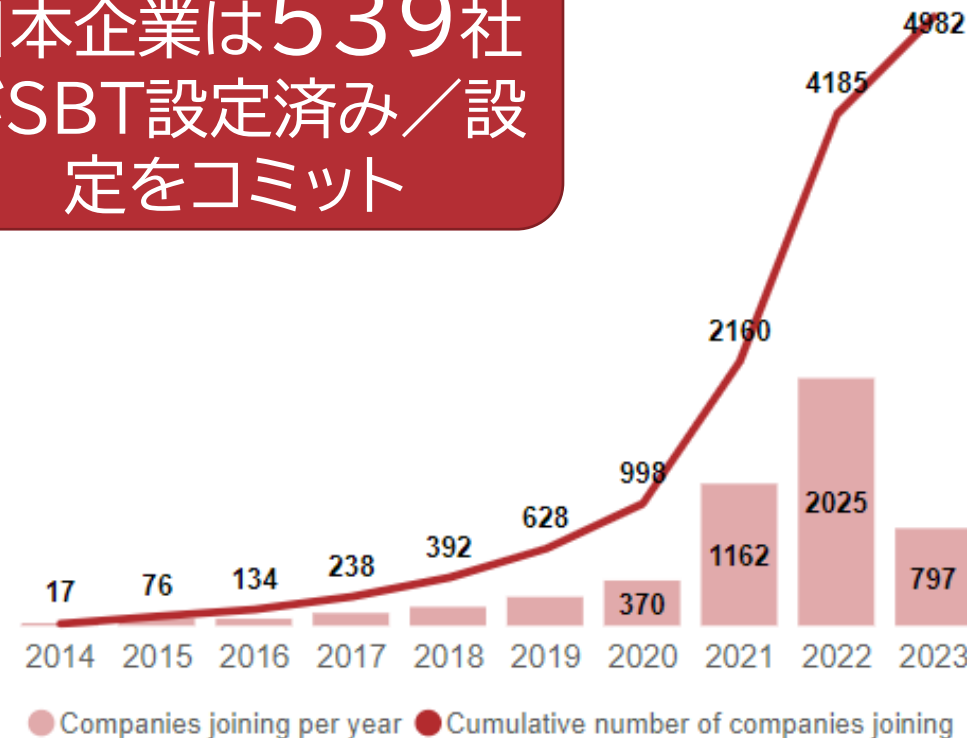
United Nations
Global Compact



WORLD
RESOURCES
INSTITUTE



とも共同



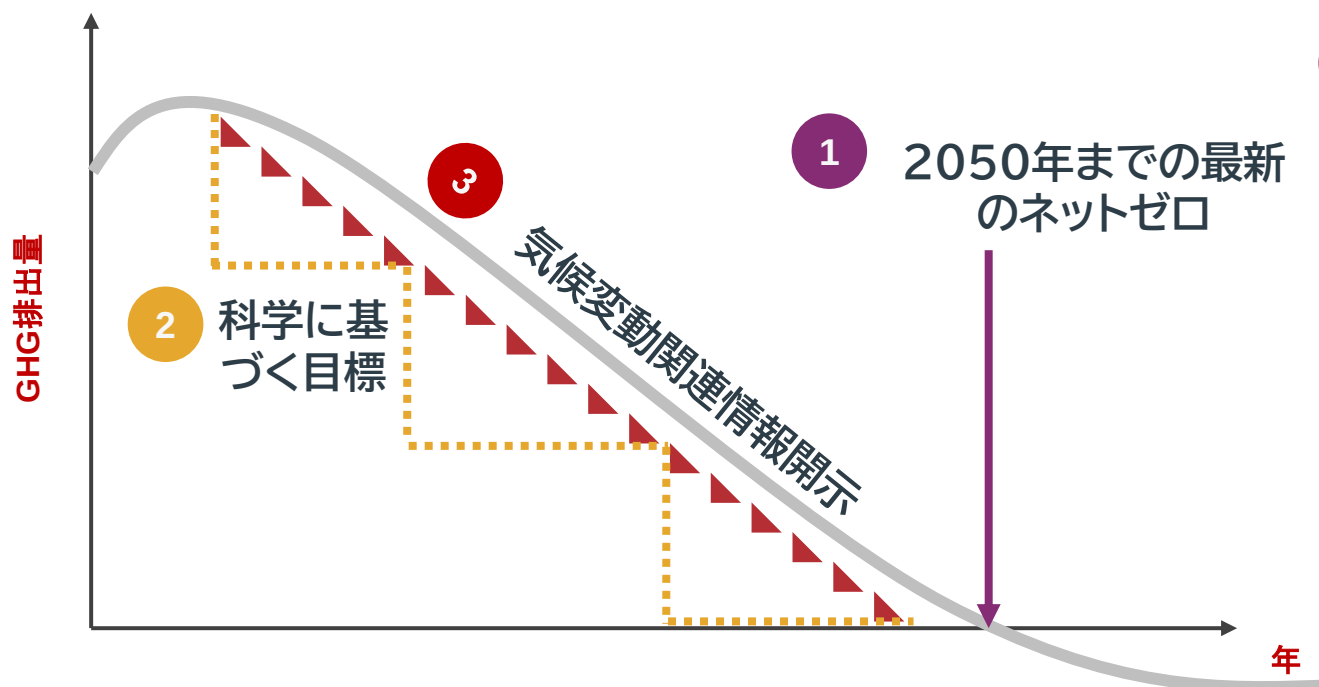
SBTへ参加する企業数の推移

科学に基づく目標 (SBT)とは？

ネットゼロへの道



”SBTは、気候科学によれば、産業革命以前の気温レベルと比較して、地球の気温上昇を 1.5°C 以内に抑えるために必要な脱炭素化のレベルと一致するGHG排出量削減目標である”



- 1 長期的なネットゼロ:** ネットゼロのコミットメントは、企業が進むべき方向性を明確にし、長期的な戦略や投資判断の北極星
- 2 科学に基づく目標:** 科学的根拠に基づく目標とは、温暖化を 1.5°C 未満に抑えるペースに合わせ、排出量を削減するための短期的な行動をとることを保証するもの
- 3 年次の情報開示:** 気候情報開示は、気候戦略が社内でどのように実施されているかを可視化し、目標に対する進捗状況について透明性を提供

SBTの設定:企業にとってのメリット

気候科学に沿うことは、ビジネスにとって有益です



ステークホルダーの期待に応える
＝ビジネスモデルの長期的な持続可能性

競争力を高める
＝エネルギーと排出に関連するコストを最小化

規制・政策・市場開拓を先取りする
＝移行リスクを軽減

低炭素社会への移行を支える機会をつかむ
＝低炭素製品・サービス

サプライチェーンにおける気候アクション

- ▼ 10社に1社はサプライヤーとの契約に気候変動関連要件を盛り込んでいます

現在

11%

of respondents
include climate-related
requirements in their
supplier contracts.

14%

have climate-related
requirements that
are not included in
their contracts.

未来

36%

今後2年以内に、サプライ
ヤーとの契約要件を導入す
ることで、購買プロセスに
サステナビリティKPIを組
み込むことを計画している

- ▼ しかし、まだ1.5°Cの気候科学に沿ったものではありません
- ▼ 現在、サプライヤーにSBTの設定を求めている企業は全体の0.04%です



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



DISCLOSURE INSIGHT ACTION

2. SBTの目標設定基準・方法

SBT設定の始め方



DAY1

24ヶ月

承認後



COMMIT

企業は科学に基づく目標を設定する意思を表明する書面を提出する



DEVELOP

企業はSBTiの基準に沿った排出削減目標に取り組む



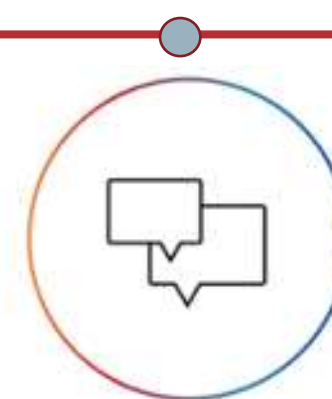
SUBMIT

企業はSBTiに目標を提示し、正式な検証を受ける



COMMUNICATE

企業は目標を発表し、ステークホルダーに知らせる



DISCLOSE

排出量と目標に対する進捗状況を年次で報告する

*大企業向けのプロセスです。SBTiは、中小企業向けのルートも用意しています。

SBT設定の始め方



▼ SBT目標の公開(SBTiウェブサイトより)

COMPANY/FINANCIAL INSTITUTION	TARGETS			ORGANIZATION TYPE
	NEAR TERM	LONG TERM	NET-ZERO	
Microsoft Corporation ★ United States of America (USA), North America	1.5°C 1.5°Cに整合した目標が認定済み		COMMITTED ネットゼロ目標設定をコミット	View less ^
Date published/updated 2019	Target summary Near term: 1.5°C by 2030 Net zero: Committed ★ Business Ambition for 1.5°C campaign member			Target American multinational technology company Microsoft commits to continue annually source 100% renewable electricity through 2030. Microsoft also commits to reduce scope 3 GHG emissions intensity per unit of revenue 30% by 2030 from a 2017 base year and to avoid growth in absolute scope 3 emissions. 目標の詳細
Sector Software and Services				

▼ CDP回答での進捗報告

(C4.1a) 排出の総量目標と、その目標に対する進捗状況の詳細を記入してください。

(C4.1b) 貴社の排出原単位目標とその目標に対する進捗状況の詳細を記入してください。

目標の設定方法(短期目標)



- ・ 目標水準 (Scope1+2): 最低限、気温上昇を1.5℃に抑えるために必要な脱炭素化の水準と一致する



- ・ 進捗状況: 目標時間軸の野心(基準年→目標年)と将来的な野心(直近年→目標年)の両方で野心要件(ambition criteria)を満たす必要あり



- ・ バウンダリー: 全社のスコープ1および2のGHG排出量(95%以上)



- ・ 時間軸: 5～10年先の未来



- ・ 報告: GHG排出量インベントリーを年単位で開示する
- ・ スコープ3: スコープ3のスクリーニングが必要。スコープ3の排出量が総排出量の40%以上である場合、野心的なスコープ3目標が必要



SBTi スコープ 3 概要



SBTiは、データの利用可能性と直接的な影響力の欠如といった課題を考慮し、スコープ1および2と比較して、スコープ3の目標設定に大きな柔軟性を持たせている:



- ・ **スコープ3:**スコープ3のスクリーニングが必要で、スコープ3排出量が総排出量の40%以上を占める場合、意欲的で測定可能なスコープ3目標が必要となる



- ・ **バウンダリー:**企業は、スコープ3排出量の2/3以上を一括してカバーする1つ以上の目標を設定する必要あり



- ・ **時間軸:**目標をSBTiに提出し、正式に検証された時点から、5~10年後の未来



- ・ **目標水準:**
 - ・ 野心の最低レベル: 2℃を十分に下回ること
 - ・ スコープ3に関するさまざまな目標設定方法
 - ・ 複数の方式を使用し、組み合わせることが可能



目標の設定方法

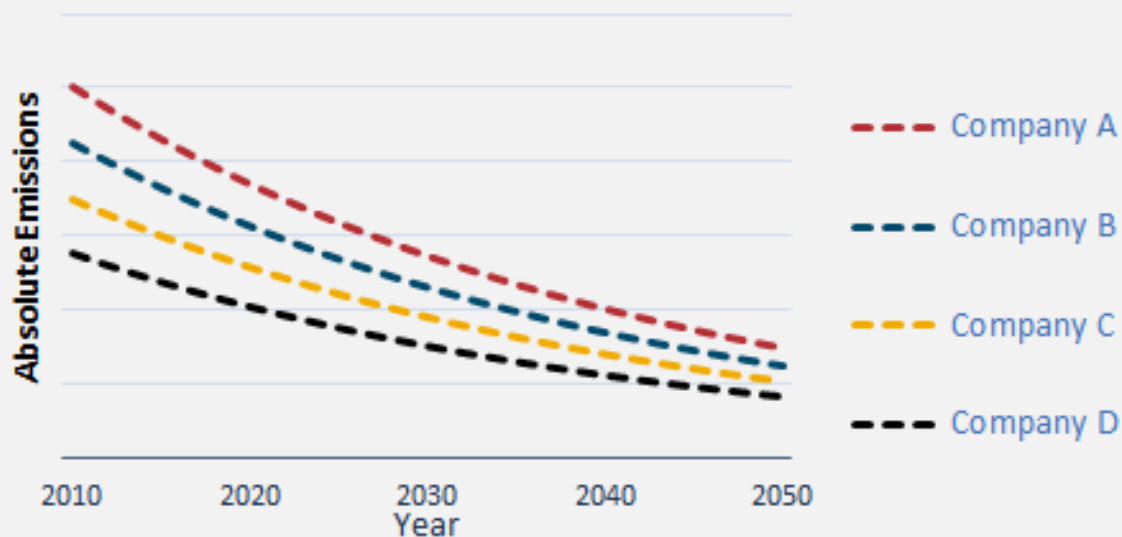
ステップ2: 目標の設定 – スコープ1 & 2目標設定方法

総量アプローチ
(Absolute-based approach)

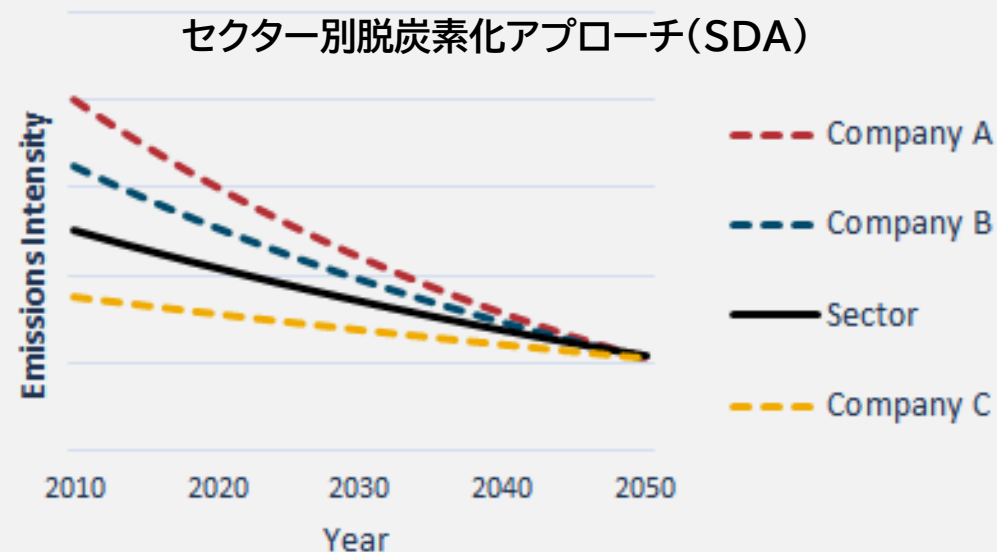
- 全セクター(発電を除く)
- 均等な削減率
- IPCC炭素予算シナリオ

セクター別アプローチ
(Sector-based Approach)

- 単一財生産セクター
- 異なる削減率
- セクター別炭素予算
(例:IEA)



同率削減(Contraction)



原単位収束(Convergence)

セクター別設定方法の詳細については、[SBTi Sector Guidance](#)ウェブページにアクセスし、ご確認ください。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

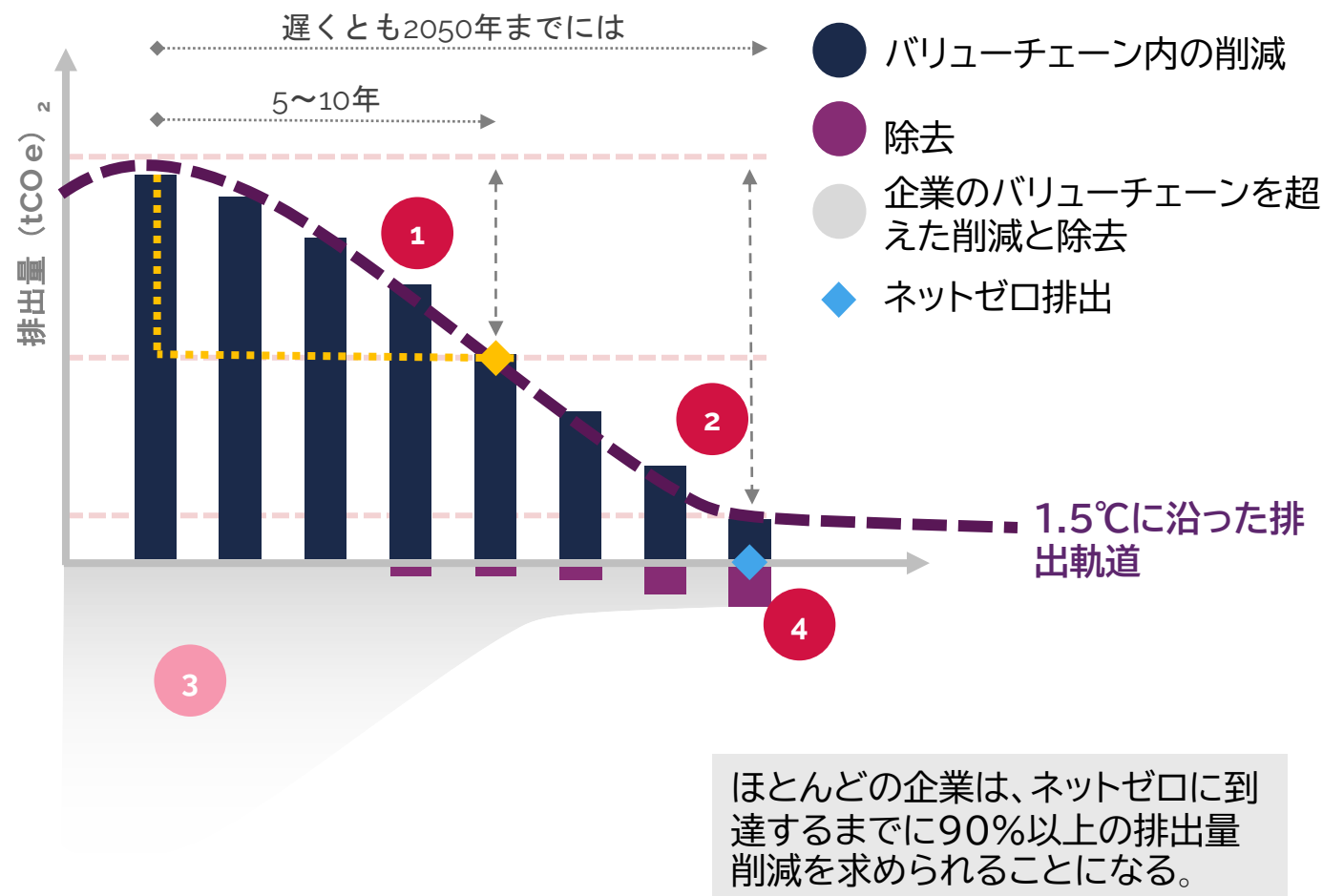


CDP™

DISCLOSURE INSIGHT ACTION

3. SBTiネットゼロ基準

ネットゼロ基準を構成する主要な4要素



- 1** 科学に基づく短期的な目標を設定:
5~10年先を目標とする1.5°C水準の排出削減目標
- 2** 科学に基づく長期的な目標を設定:
遅くとも2050年までに1.5°C水準と整合する残余水準まで削減する目標
- 3** バリューチェーンの緩和を超えて:
ネットゼロへの移行において、企業はバリューチェーンを超えてGHG排出削減のための行動をとる必要がある。例えば、質の高い管轄区域内REDD+クレジットを購入したり、直接空気回収技術(DAC)や地中貯留に投資したりすることが挙げられる。
- 4** 残余排出の中和:
企業が長期的なSBT目標を達成した際に残る未削減の排出量の影響を相殺するため、大気中の炭素を永久的に除去・貯蔵しなければならない。



必須



推奨

目標設定に向けての4つの考慮事項



科学に基づく
近未来目標



バウンダリー

どの程度、排出量インベントリをカバーする必要があるのか。

スコープ1+2:95%。
スコープ3:総排出量の40%以上の場合、67%をカバーする。



目標水準

気温上昇を抑えるという点では、どの程度の目標水準レベルなのか。

スコープ1+2:1.5°C
スコープ3:2°Cを十分に下回る。



時間軸

目標を達成するための最大限の時間軸は。

5~10年



方法

目標を設定するための適格な方法とは。

- 1.総量同率削減
- 2.物理的原単位収束(SDA)
- 3.再エネ電力
- 4.エンゲージメント
- 5.経済的原単位*
- 6.物理的原単位*



科学に基づく
長期的な目標

スコープ1+2:95%
スコープ3:90%

スコープ1+2+3:
1.5°C

遅くとも2050年

- 1.総量同率削減
- 2.物理的原単位収束(SDA)
- 3.再エネ電力
- 4.経済的原単位*
- 5.物理的原単位*



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



CDP[™]

DISCLOSURE INSIGHT ACTION

4. SBT FLAG

SBTi FLAGガイドンス



FLAG SBTとは

全世界のGHG排出量の20%以上が、農業、林業、土地利用によるものであることから、SBTiではWWFの支援を受け、関連するセクターに特化したガイドンスを開発。

関連する規格等

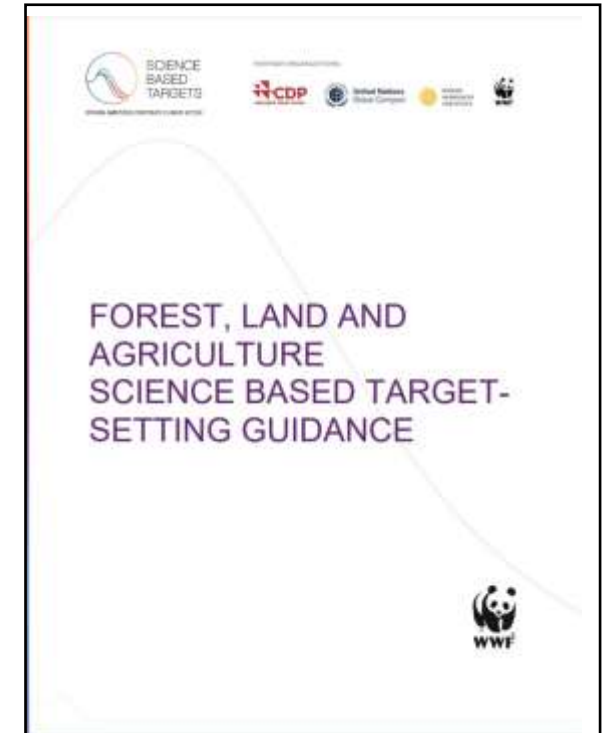
- ”SBTi FLAG Guidance”:2022年9月公表
- “GHGプロトコル土地分野・除去ガイドンス”

現在ドラフト公開、パイロットテスト中。[\(関連リンク\)](#)

2023年中に正式版への改訂予定。この策定までSBTiでは同文書のドラフト版を用いた算定を認め、確定後は正式版に従った算定等が必要。

•新FLAG目標

森林、土地、農業(FLAG)の排出量と除去量のカテゴリーは、GHGプロトコル土地・除去量ガイドンスと一致



SBTi目標の構造・選択ルート

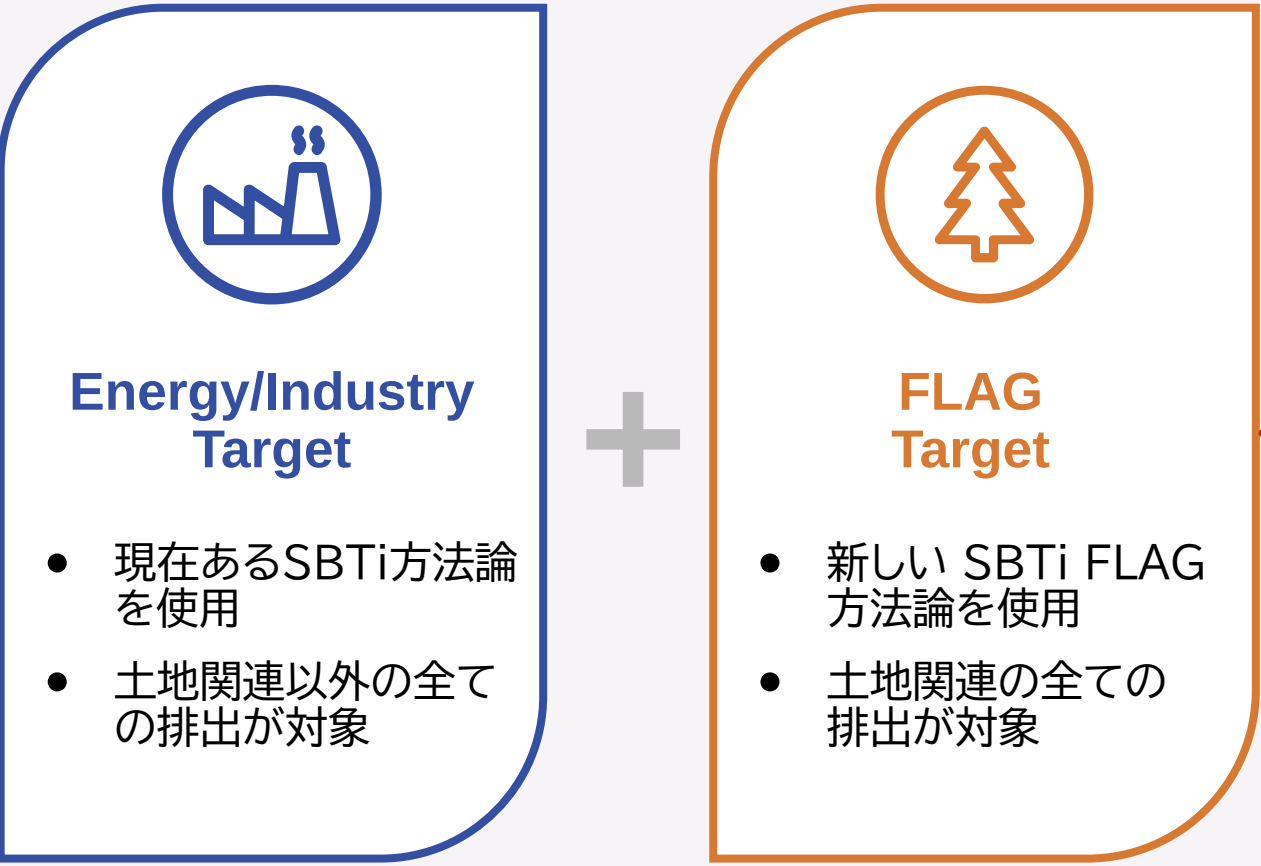
特徴:

1. 生物起源の排出量: 生物起源の排出・除去量を算定に含む
2. 土地利用変化: 2025年末までの森林減少根絶の宣言を要求
3. 閾値: FLAG目標の設定が必要な、対象企業の水準提示
4. 時期: いつFLAG目標の設定が必要かの時間軸の明示



構造

FLAG目標はエネルギー/産業目標に加えて必要



選択ルート

2つの経路がFLAGとして定義されている



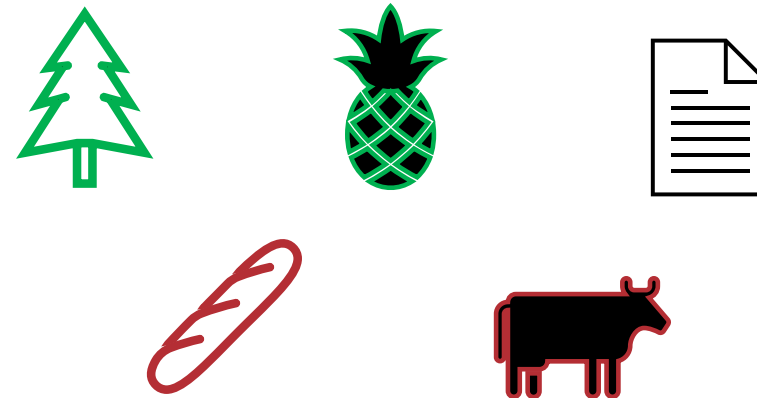
FLAG目標の要求事項

設定が求められる企業

以下の2つの基準のいずれかに該当する企業に対して、FLAG目標の設定を求めています。

i) SBTiにおける以下の指定業種(セクター)の企業

- 森林・紙製品 – 林業、木材、紙・パルプ、ゴム
- 食品製造 – 農業生産
- 食品製造 – 動物原料
- 食品および飲料の加工
- 食品・生活必需品小売業
- タバコ



ii) FLAGに関連付けられる排出が、総排出量(スコープ1, 2, 3)の 20%以上の企業

2023年4月以降、SBT目標を設定する企業はFLAGの目標も合わせて設定することが必要となります。

※ SBTi枠組みの中小企業に該当する企業は、本規定の対象外。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

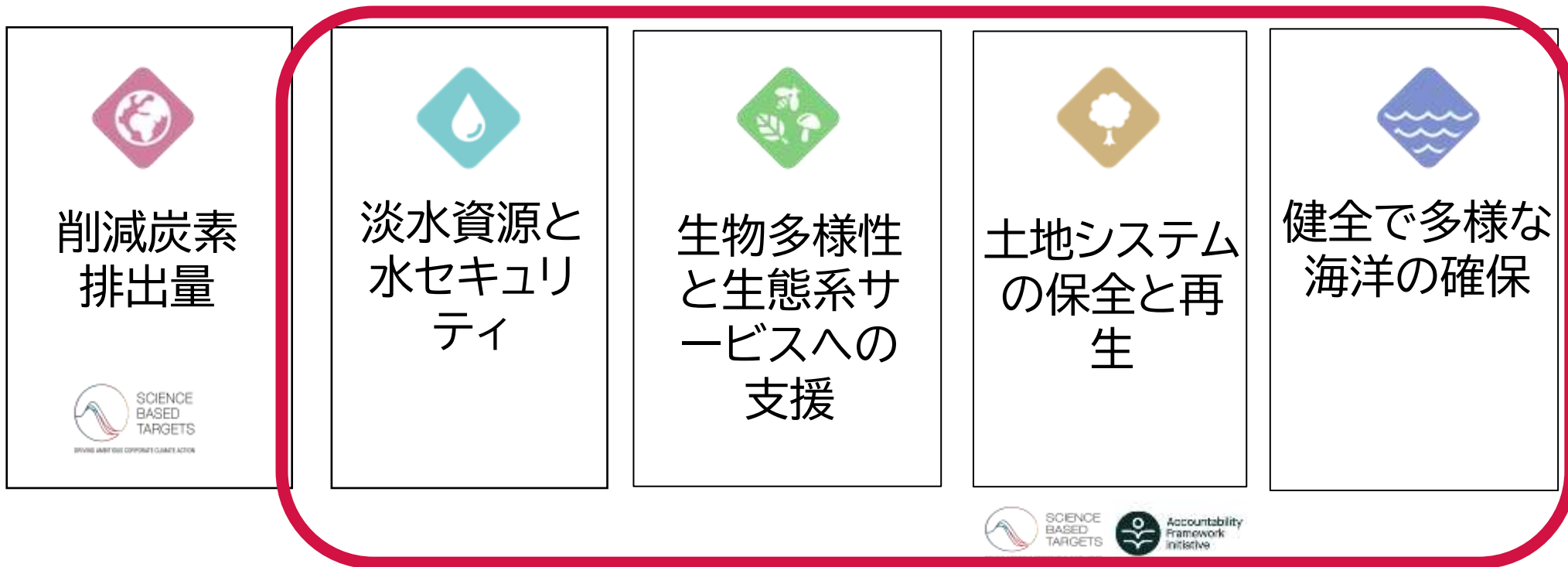


CDP™

DISCLOSURE INSIGHT ACTION

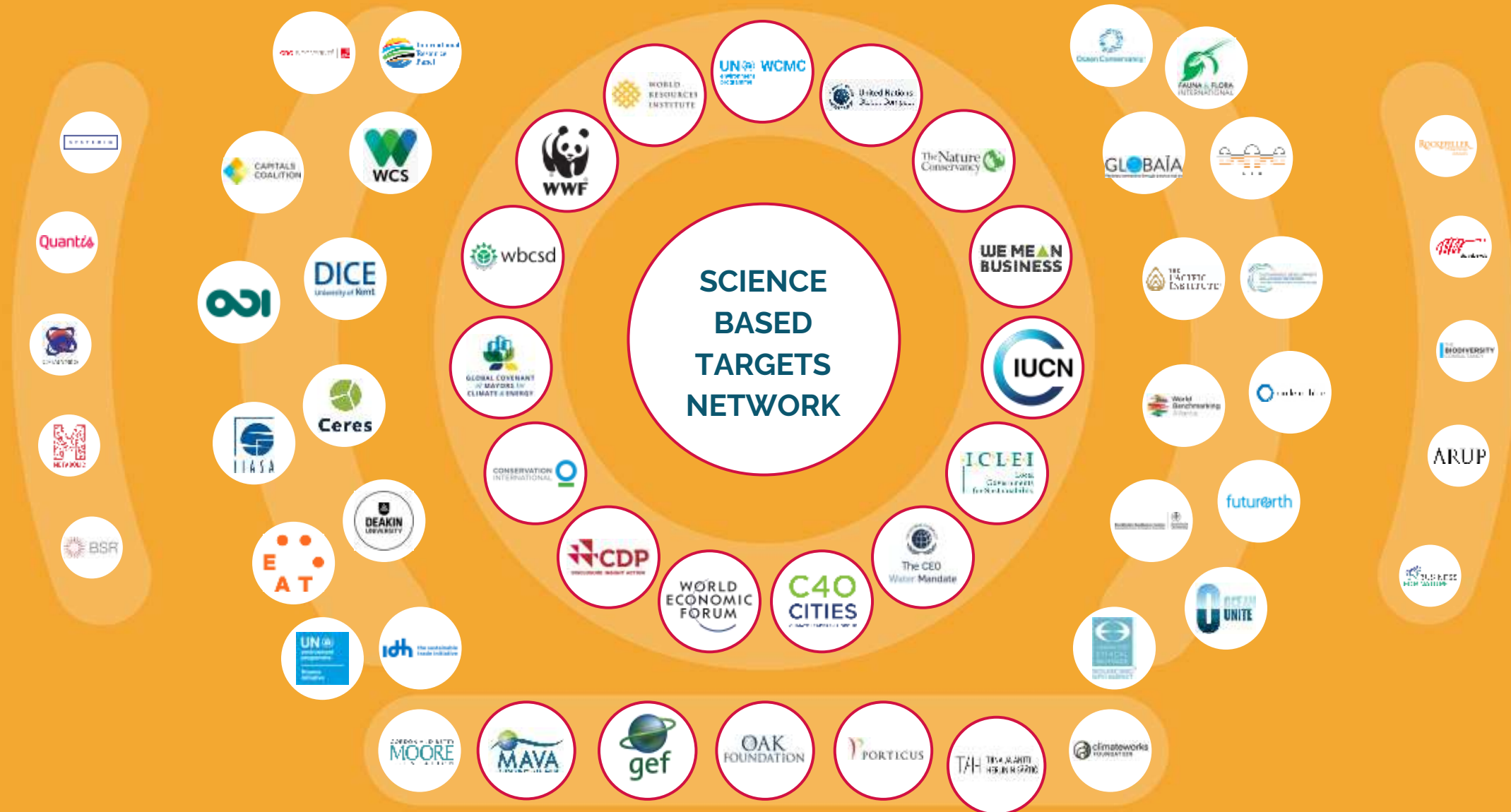
5. ネイチャーSBT

ネイチャーSBTs (SBTs for Nature)



- 4つの「ハブ」／課題範囲
- 対象は直接業務と上流のサプライチェーン段階(現在)
- 対象ユーザーは、業種にとらわれない企業

SBTネットワーク(SBTN)



ビジネスにおけるメリット

自然環境への影響に対応するメリット

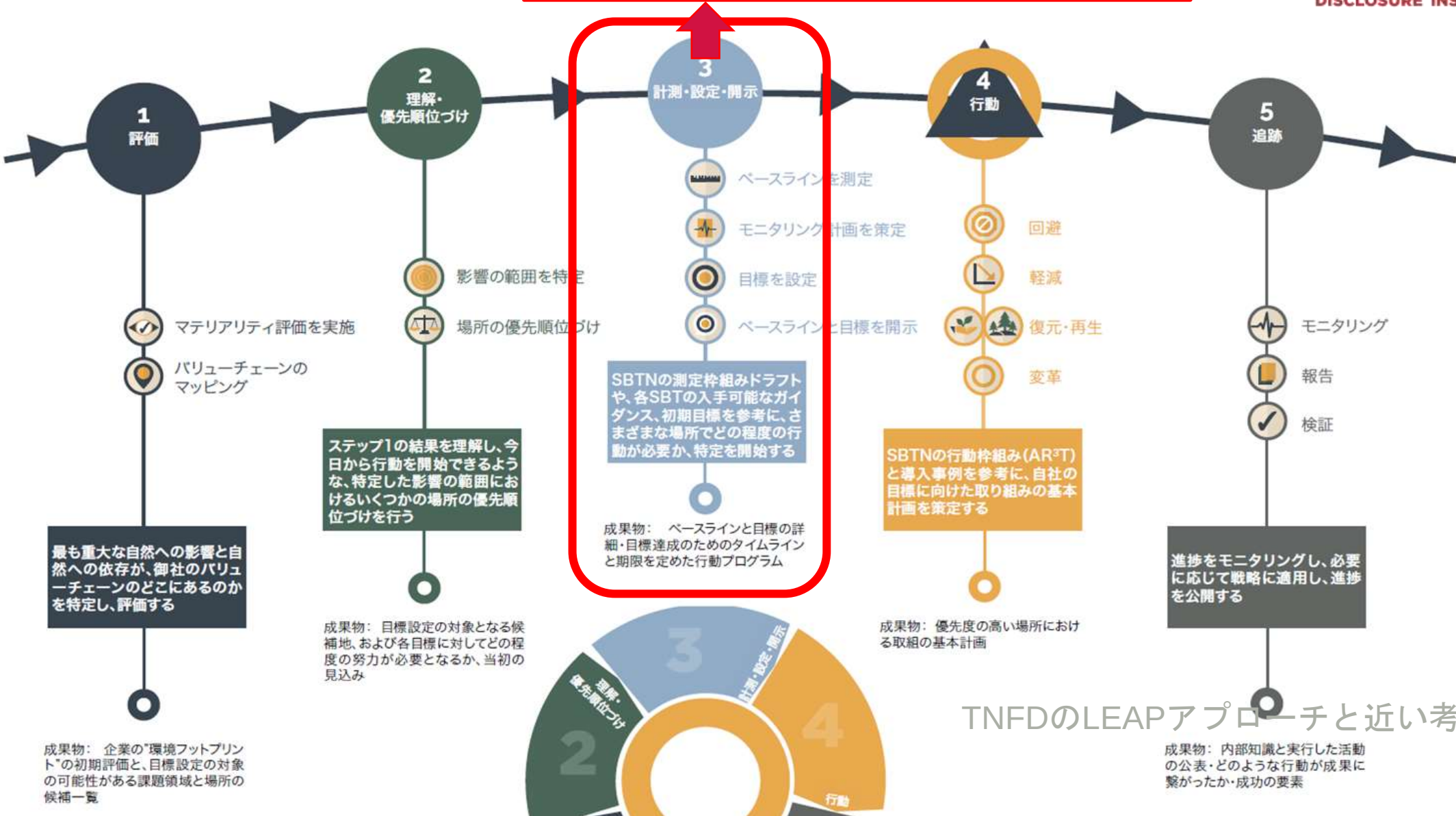
- よりレジリエントなサプライチェーンとリスクの低減
- 投資家の信頼向上
- 収益の改善
- 政策や規制の変更に事前に備える

SBTs目標設定のメリット

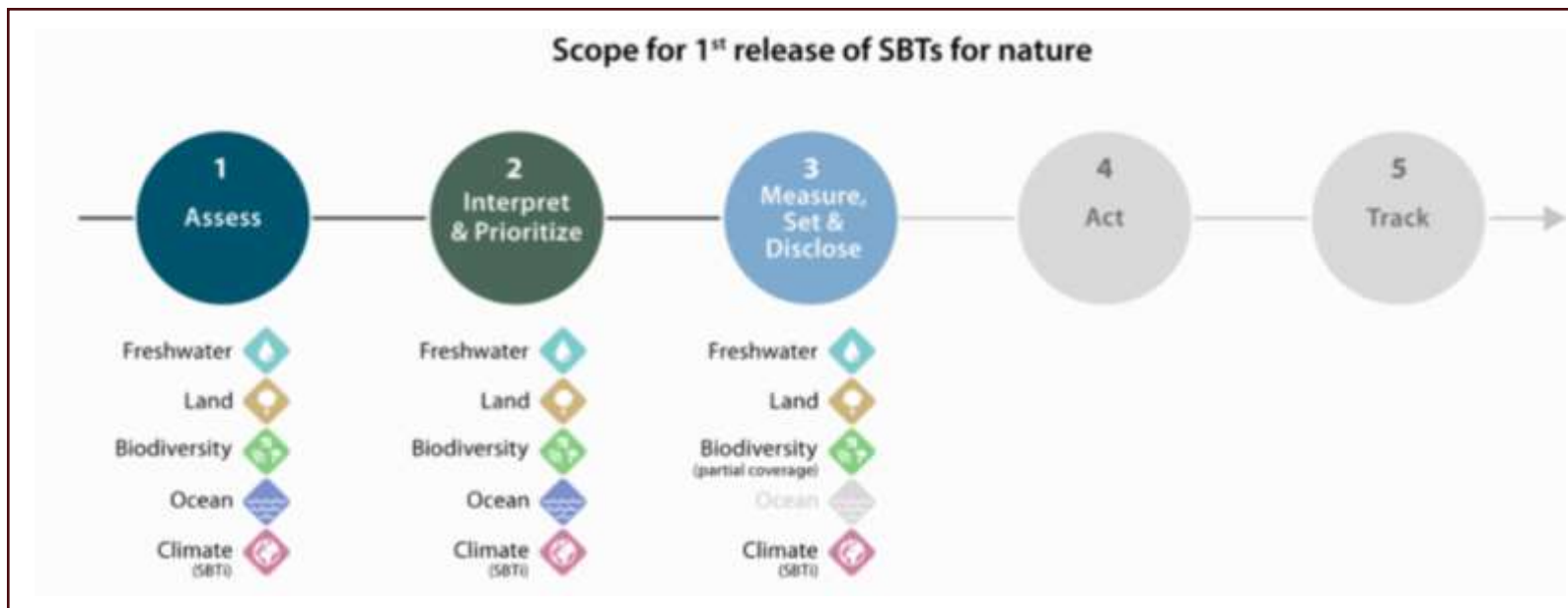
- 一貫した測定
- 整合性のあるフレームワーク
- 信頼性の高い方法論
- 統合されたアプローチ

ネイチャーSBTs設定の5手順

2023年5月24日に「淡水・陸上」の目標設定
ガイダンスが発表された
他テーマの方法論は追って発表予定



テーマごとの状況とタイムライン



2020
ネイチャーSBTs
初期ガイダンス

基礎構築

2023 5月24日
ネイチャーSBTs
第1版

限定的なセクターと
方法論の発表

2024
ネイチャーSBTs
第2版

対応セクター、
方法論の追加

2025年
ネイチャーSBTs設
定のための方法論

包括的な企業向け
SBTs



CDP Worldwide-Japan

Address: 東京都千代田区大手町2-2-1新大手町ビル3階



japan.cdp.net（日本語サイト）



お問い合わせ

[CDPヘルプセンター](#) > マイサポート（画面右上）までお問い合わせください。
マイサポート画面にアクセスするには、CDPへの[サインイン](#)が必要となります。

ヘルプセンターへのアクセスが難しい場合は、japan@cdp.netまでご連絡ください。